

社会医療法人天神会 広報誌

KOGA

新古賀病院

古賀病院 21

新古賀クリニック



へき地医療・福祉も担う社会医療法人へ	P 3
「思いやりの地域医療を推進」 理事長 古賀伸彦	P 4
佐賀国際重粒子線がん治療財団と連携協定調印	P 5
上海の診療所と業務提携	P 6
市民セミナー3回 600人聴講	P 7
新古賀病院がDPC病院Ⅱ群に	P 9
震災被災地の医療再建に福山名誉院長赴任	P 11～12
緩和ケア病棟「実りの樹」を開設	P 13
健康管理センター受診者5年間で2.65倍	P 15
天神会の外来診察予定表	P 17～18

社会医療法人の認定披露式に319人

P1～2



2012年7月

天神会は2012年4月1日付で福岡県知事から公益性の高い「社会医療法人」の認定を受け、6月8日に久留米市東櫛原町のホテルマリターレ創世久留米で開催した認定披露式には久留米医師会の北里誠也会長や久留米大学の神代正道理事長、久留米市の榎原利則市長、八女市の三田村統之市長、久留米広域消防本部の福田義宜消防長、久留米警察署の花田利夫署長、古賀一成衆議院議員、佐賀国際重粒子線がん治療財団の十時忠秀理事長ら各界代表の319人に出席していただきました。写真左。

# 公益性高め地域医療へ貢献

認定披露式ではまず、古賀伸彦・理事長兼新古賀病院長が「写真」が「長年にわたり支えていただきました。多くの方々のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます」と述べたあと、スライドを使いながら天神会の施設概要や歩みを紹介。「救急医療」での認定条件整備だけでなく、今年12月には八女市の無医地区・辺春地区



## 社会医療法人の認定披露式に319人

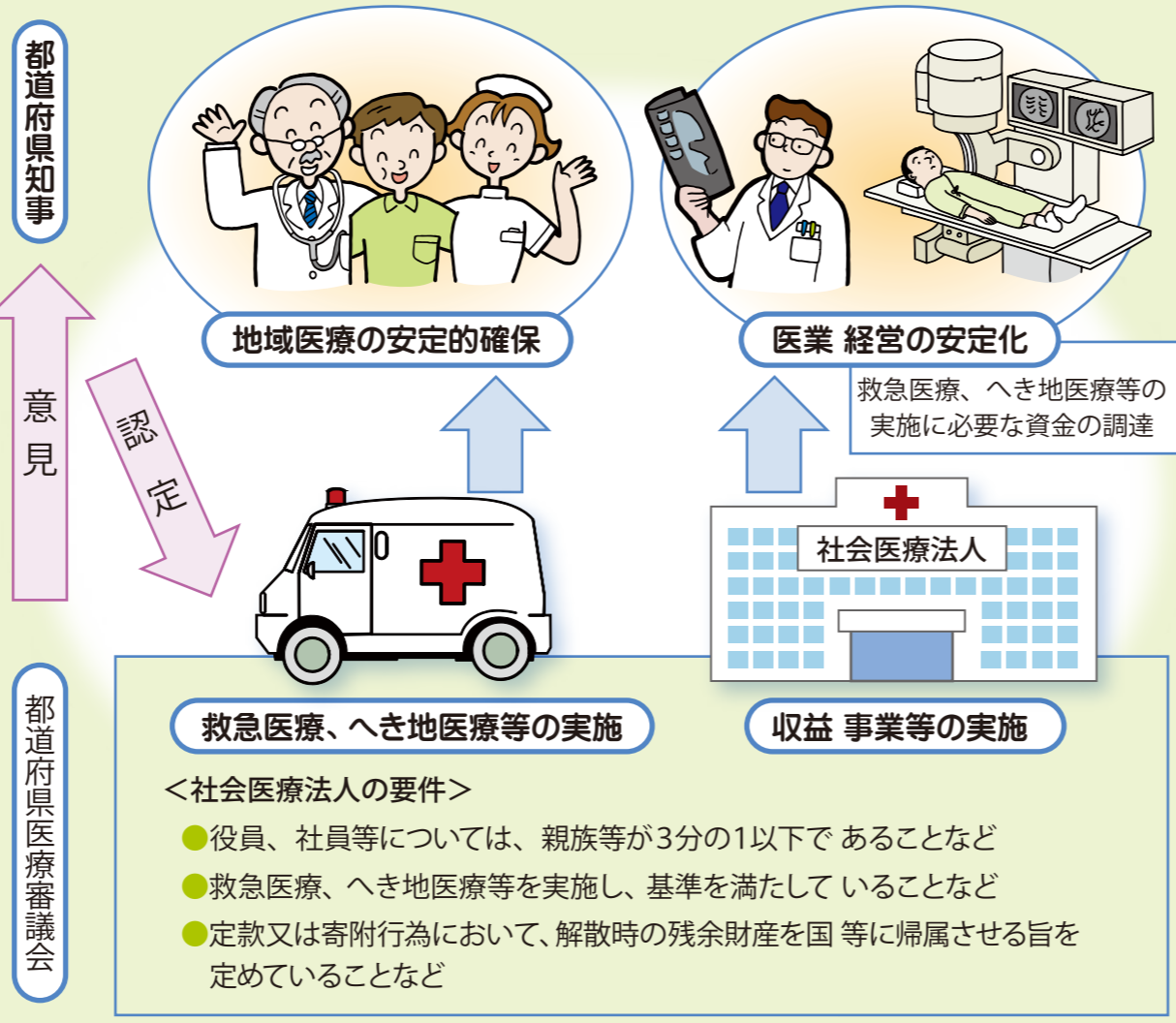


久留米市宮ノ陣の久留米ビジネスパーク内に老人福祉施設「こがケアアベニュー」を開設し、「医療と福祉の切れ目ないケアを推進する社会医療法人」となることなどを報告しました。

このあと、久留米市の榎原市長「写真」から「本来は公が担うべき救急やへき地などの地域医療を担う市内二つ目の社会医療法人誕生で、非常に心強く、喜んでいきます。私もが開発した久留米ビジネスパーク内には医療と福祉を繋ぐ新しい形の老人福祉施設、八女市にはへき地診療所を開設の予定で、さらに大きな地域医療への貢献の輪を広げていただいています。久留米市が進める医療を大きな財産とした新しい街づく



久留米市が進める医療を大きな財産とした新しい街づく



りへのご協力もお願いし、ますますのご発展をお祈りいたします」とのご祝辞をいただきました。



また、久留米大学の神代理事長「写真」からは「厳しい基準のハードルを乗り越えての認定、誠にありがとうございます。久留米大病院が昭和3年に久留米市立病院、平成5年に国立病院の委譲を受けており、本院がもつ公益性の使命を担わねばならないのですが、特定機能病院という言葉に甘えています。これから先、天神会と聖マリア病院、本院がタッグを組んで、より緊密な連携体制の

もとに、さらなる福岡県南の地域医療充実に貢献していく必要があると考えています」とのご祝辞をいただきました。



会長「写真」が「これまでの地域医療への高い貢献度が評価されての認定という結果であり、今後とも質の高い地域医療を提供していただきたい」とあいさつ。同会長の乾杯の発声で開宴し、「よさこい連みずま」のメンバー19人による踊りを楽しみながら懇談しました。



午後8時半すぎ、久留米広域消防本部の福田消防長「写真」が「天神会には地域医療の要として年間約2000人の救急患者を受け入れていただいております、今回の認定は長年のご努力とご尽力の賜物と思えます」とあいさつ、同消防長の音頭で出席者全員が一本締めをして閉会しました。

公益性の高い救急、災害時、へき地、周産期、小児の5つの医療はこれまで公立病院が中心になって取り組んできましたが、公立病院の運営が医師不足などの影響で極めて厳しい状況の中、社会医療法人は地域で特に必要なこの5つの

### 社会医療法人とは

の公的運営条件が求められます。さらに、申請した医療法人の救急、災害時、へき地、周産期、小児の医療の何れかが都道府県作成の医療計画に記載されており、その構造設備、体制、業務実績が基準を満たしているかどうかなども問われます。

### 新古賀病院の救急で認定

天神会では、新古賀病院が①救急医療施設として必要な診療部門及び病床を持ち、福岡県の定める医療計画に記載されており、オンコール体制を含む常に救急患者に医療を提供する体制を確保している②直近3会計年度(20~22年度)の救急医療実績でも、夜間救急車搬送(午後6時

〜翌日午前8時)件数が認定基準の750件を大幅に上回る1269件に達していることから、5つの当該医療のうちの救急医療を選んで認定条件をクリアするとともに、新たな定款を作成して、公的運営条件を満たし、社会医療法人の認定を受けました。

# へき地医療・福祉も担う社会医療法人へ

ンやトイレ付)計75室(18平方メートルタイプ30室、25平方メートルタイプ)

天神会は社会医療法人の新事業として、久留米市宮ノ陣の久留米ビジネスパーク内に有料老人ホームを中心にした老人福祉施設「こがケアアベニュー」を開設する工事に2012年4月に着工しました。また、8月には「へき地保健医療対策実施要綱」の対象となつてい

る八女市の無医地区・立花町迎春地区に住民待望の診療所を開設する工事も着工しました。

417平方メートルの建物を建設し、1階にはクリニック(診療所)や介護施設(デイサービス、通所リハビリテーション)、ケアプランサービス、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、事務室などが入居。2、3、4階には有料老人ホームの個室(エアコ

## 迎春診療所の開設工事着工

迎春地区は熊本県境の山間部であり、現在約1400人が住んでいますが、2010年3月に無医地区となり、住民の要望を受けて八女市が民間の診療所開設事業者を公募していました。

八女市から無償で借り受けた旧上迎春小学校舎を改修して診療室、処置室、レントゲン室、待合室、受付のほか、宿直室や地区住民の健康教室などを開くための研修室



庭園に設ける足湯

個室のイメージ



完成予想図

## こがケアアベニュー来春開設

「こがケアアベニュー」の開設は、公益性の高い社会医療法人として、医療と福祉の切れ目ないケアを推進するためです。久留米市と進出協定書を経て独立行政法人中小企業基盤整備機構から購入した、古賀病院21から東南方向に約300メートル離れたところにある久留米ビジネスパーク内の用地11755平方メートルに、全館バリアフリーの鉄筋4階建て延べ5



地元コミュニケーションセンターで開いた住民説明会

「迎春診療所」の開設とその診療実績(年間209日以上)によって「へき地医療」での認定条件も整うこととなります。

天神会は2012年4月1日付で、福岡県知事から社会医療法人の認定をいただきことができました。これも一重に、長年にわたり天神会を支えていただきました多くの皆様方のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。社会医療法人として今年12月には八女市の無医地区・

迎春地区に診療所、来年4月には久留米市宮ノ陣の久留米ビジネスパーク内に老人福祉施設「こがケアアベニュー」を開設することにしており、今後とも救急医療はもちろん、へき地医療や災害医療にも貢献する社会医療法人を目指すとともに、医療と福祉の切れ目ないケアも推進していく所存です。

## 思いやりの地域医療を推進

に思うとともに、医療人として深い

群(I群)、大学病院本院に準じる診療密度と一定の機能を備えた高診療密度病院群(II群)、その他の急性期病院群(III群)にグループ分けしましたが、新古賀病院がII群に位置付けられました。予期せぬことで、感激するとともに、地域医療における責任の重さを感じています。



### 理事長 古賀伸彦

敬意を表する次第です。福山院長には引き続き名誉院長としてご教示をお願いし、新古賀病院院長は私が兼務することとなりました。また、新古賀病院の肥山淳一郎副院長も退職され、新たな新古賀病院副院長に川崎友裕・心臓血管センター長、新古賀クリニック副院長に大坪義彦・診療部長に就任していただきました。

新古賀病院	
院長	古賀 伸彦(循環器内科) 2012年4月～
名誉院長	福山 尚哉(循環器内科) 2012年4月～
副院長	赤澤 昭一(糖尿病・内分泌内科) 2001年8月～
	林 明宏(呼吸器外科) 2008年10月～
	吉戒 勝(心臓血管外科) 2009年6月～
	吉岡 真実(麻酔科) 2010年6月～
	川崎 友裕(循環器内科) 2012年6月～
古賀病院 21	
院長	平松 義博(循環器内科) 2010年4月～
副院長	宮川 洋介(呼吸器内科) 2002年9月～
	二之宮 謙一(整形外科) 2009年10月～
	大曲 淳一(放射線治療科) 2010年4月～
新古賀クリニック	
院長	宮本 祐一(内科) 2009年6月～
副院長	大坪 義彦(循環器内科) 2012年6月～

をさらに深めて、患者さんの目線に沿ったきめ細かな思いやりの地域医療を推進していきたいと考えています。

## 大震災支援FM番組に協賛



協賛社名が掲示された特設ステージ

天神会は「cross fm」が2012年3月3日正午から約5時間にわたって放送した特別企画番組「東日本大震災で被災した子供たちに」今、私たちが出来ること」に協賛しました。福岡市の天神大丸パサージュ広場に特設された公開ステージから八木徹さんと内堀富美さんをナビゲーターに中継放送され、NPO法人「国境なき子どもたち」の関係者、宮城県や岩手県の被災者らが出演して被災地の模様などを報告、今後の救援活動の在り方なども話し合いました。協賛金の一部はNPO法人「国境なき子どもたち」に寄贈されました。

# 佐賀国際重粒子線がん治療財団と 天神会が医療機能連携協定を調印

天神会は2012年7月、佐賀県鳥栖市に来春開業予定の九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)の運営法人「佐賀国際重粒子線がん治療財団」と「医療機能連携協定」を締結しました。



医療機能連携協定書に調印する十時理事長(左)と古賀理事長

### 医療機能連携実施内容

- 1 相互に患者の紹介・受け入れを行うものとする
- 2 医師等の医療従事者の人事交流等を通じて、人材育成及び医療技術の向上を図るものとする
- 3 相互が主催する症例検討会、講演会及び研究会の参加を推進するものとする
- 4 医療情報のIT化や共有化を推進し、相互の連携強化を図るものとする

重粒子線がん治療は炭素イオンを加速器で光速の60〜80%まで加速し、がん病巣に狙いを絞って照射する最先端の放射線治療法で、九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)が九州では初めて、国内4番目の治療施設です。

「医療機能連携協定」の調印式は、古賀病院21の福利厚生棟1階会議室で行われ、天神会から古賀伸彦理事長、古賀病院21の平松義博院長、大曲淳一・放射線治療センター長、佐賀国際

重粒子線がん治療財団から十時忠秀理事長、工藤祥・九州国際重粒子線がん治療センター長、北村信・専務理事、堀田東洋・企画経営課長が出席。両理事長が協定書に署名したあと、十時理事長から古賀理事長に天神会が同財団に贈った寄付金に対する感謝状が贈られました。

協力をしていきたいと思っています」と挨拶、十時理事長は「放射線治療医の育成や東南アジア向け医療展開の連携、術前術後のフォローアップなど、いろいろなことにご協力をお願いしたいと考えています」と述べました。協定書には別表の通り4つの医療機能連携実施内容が盛り込まれており、相互の患者紹介や外来治療に特化した九州国際重粒子線がん治療センターからの入院患者、検査の受け入れなどを行うことにしています。

## 青空会が太宰府バスハイク楽しむ



天神会グループの医療施設の管理で在宅酸素療法をしている患者さんやご家族で結成した「青空会」の9人が2012年5月26日、太宰府へのバスハイクを楽しみました。

医師らスタッフ13人が携帯用酸素ボンベや薬剤、挿管セットなど持って同行し、往復のバスの中ではカラオケを楽しみ、太宰府天満宮では太鼓橋を散策して参拝。写真。近くのホテルグランティア太宰府で昼食を取ったあと、九州国立博物館も訪ね、開催中の特別展「平山郁夫シルクロードの軌跡」を鑑賞しました。

## 天神会

# 上海の診療所と業務提携

「医療の国際化時代」に対応して社会医療法人天神会は、中国・上海市で上海森茂診療所を運営する上海森茂診療所有限公司と業務提携契約書を交わし、2012年4月から天神会職員の現地への出向派遣を始めました。

天神会が業務提携契約を締結した上海森茂診療所有限公司は1998年、東京・六本木ヒルズなどのオーナー会社「森ビル」が上海市浦東新区陸家嘴路に建設した恒生銀行ビル3階に、上海初の在留邦人や日系企業従業員を対象にした診療を行う上海森茂診療所を開院した現地法人です。有限会社の社長や、営業本部長はもろろん、診療所の医師、看護師、検査技師らの半数は日本人で、「日本語が話せる上海を熟知したスタッフが在留邦人のホー

ムドクター」としての機能を担ってききましたが、現地での中国人富裕層の利用者拡大や日本の先進医療に対する信頼度の高まりなどを受けて、今年4月から中国人富裕

## 4月から職員2人を4~6月間出向派遣

ん(27歳)＝写真Ⅱを6か月間、昨年10月に「医療の国際化」に関する業務を担当するために天神会に入職した経営管理部の田村龍一さん(41歳)を4か月間の予定で派遣しました。

健康センターを拠点に駐在して、上海への出向者に関する業務調整などを行うとともに、平山さんと一緒に中国語を学んでいます。平山さんの上海レポートを天神会ホームページのブログで月2回掲載しています。上海レポートはトップページの「ブログ更新履歴」のリンクからご覧いただけます。

写真上=平山さん 写真下=上海で中国語を習う田村さんと平山さん



した院内公募に応じました。現地の診療所と健康センターでの栄養相談と補助業務を行うとともに、語学学校にも通って中国語と中国文化の習得にも努めており、「仕事で海外に行って、現地の生活を学べるようなチャンスは人生にはそんなないことだからと思って応募しました。上海の診療所での栄養指導を確立し、中国語が片言でも話せるようになりたいと思っています」と話していました。

今後は看護師の出向派遣も始め、栄養士、看護師ともに6か月交代で交流を継続していくことになっており、田村さんは診療所と



上海森茂診療所の受付カウンター



古賀病院21の平松院長の講演を聴く参加者

# 市民セミナー3回600人聴講

天神会では2012年から毎年、偶数月に年5回の市民公開医療セミナーを新古賀病院5階の記念講堂で開催していくことを決め、これまでに左表の通り計3回のセミナー（2月4日、4月7日、6月30日）を開催して、筑後地区はもちろん、福岡市や佐賀、大分両県内などを含む約600人の地域住民の皆様が聴講していただきました。



アロマセラピーコーナーで、ハンドマッサージを体験する参加者

この市民公開医療セミナーは多くの地域住民の皆様が天神会が取り組んでいる先端医療などを広く知っていただ

## 市民公開医療セミナー

### 第1回目「がんの早期発見・早期治療とがんサロン」

「がん」を早期発見するための  
40列 PET-CT を含む総合健診について  
古賀病院 21 吉田 毅・PET 画像診断センター長  
「がん」を切らずに治療する『最新の放射線治療』  
古賀病院 21 大曲 淳一・放射線治療センター長  
がん患者さんとご家族の交流の場『がんサロン』を開催して  
新古賀病院 堤 慶子・医療ソーシャルワーカー  
「がん」になった時の心構え～みんなで闘うがん医療～  
九州大学病院 外 須美夫・麻酔科蘇生科教授

### 第2回目「心臓・脳と血管 ～動脈硬化性疾患の高度医療連携～」

増え続ける脳卒中～診断と治療について～  
新古賀病院 一ツ松 勤・脳卒中脳神経センター長  
兼脳神経外科部長  
脳卒中の血管内手術～切らずに治す脳のカテーテル治療～  
新古賀病院 伊藤 理・脳血管内外科部長  
ストップ・ザ・心筋梗塞～覚えておきたい三つの注意事項～  
新古賀病院 川崎 友裕・心臓血管センター長  
最新の狭心症治療～冠動脈バイパス術を含めて～  
新古賀病院 吉戒 勝・副院長兼心臓血管外科部長  
心血管病のリハビリテーションと地域・グループ連携  
古賀病院 21 平松 義博・病院長  
動脈硬化の予防と食生活  
新古賀病院 一ツ松 薫・栄養科長

### 第3回目「がん診療の最前線から ～肺・胃・乳・肝臓・大腸の5大がん～」

「がん」とは～みて知るいろいろな「がん」～  
新古賀病院 入江康司・病理診断科部長  
乳がん～乳房温存率88.2%のチーム医療～  
新古賀病院 田中喜久・乳腺外科部長  
肺がん～生存率低く、なによりも予防が大事～  
新古賀病院 富永正樹・呼吸器内科部長  
胃がん・大腸がん～内視鏡検査による早期発見と治療～  
新古賀病院 中村弘毅・消化器内科部長  
肝臓がん～当院での治療の実際～  
新古賀病院 高尾貴史・消化器外科部長  
緩和ケア病棟の担うもの  
古賀病院 21 小林慶太・緩和医療部長

# 九州初の日本血液浄化技術学会学術大会

天神会は4月21、22日の2日間、福岡市で九州初の日本血液浄化技術学会第39回学術大会を開催し、透析に従事している全国の臨床工学技士をはじめ、医師や看護師、理学療法士、栄養士ら909人が参加して研究の成果を発表するなど研鑽を深めました。

天神会では2012年から毎年、偶数月に年5回の市民公開医療セミナーを新古賀病院5階の記念講堂で開催していくことを決め、これまでに左表の通り計3回のセミナー（2月4日、4月7日、6月30日）を開催して、筑後地区はもちろん、福岡市や佐賀、大分両県内などを含む約600人の地域住民の皆様が聴講していただきました。



日本血液浄化技術学会は1991年、「血液浄化に関する技術と知識の向上のための研究及び事業を行い、その発展と普及を図ること」を目的に発足。かねてから同学会の顧問を天神会の古賀伸彦理事長、幹事を古賀病院21・臨床工学部の岩本ひとみ技士長（現・新古賀クリニック）Ⅱ写真Ⅱがしていることから天神会が事務局、岩本技士長が大会会長を務めました。

「透析医療の心・技・体を学ぶ」をメインテーマに開催し、開会式では岩本大会会長が「この大会が今後の血液透析のチム医療の発展に直結した機会となれば幸いです。」などとあいさつ。「心」を学ぶ特別講演「リスクマネージメント」医療事故の経験から伝えたこと」やシンポジウム「透析現場で取り組もう」看護師のメンタルヘルス、「技」を学ぶパネルディスカッション「技士の立場で透析患者を多方面から診る」や同学会の各委員会が企画したセミナー、「体」を学ぶ教育講演「運動療法の基礎」や実技セミナー「運動療法」



実技セミナー「透析患者のフットケア」を受講する参加者

「フットケア」などがあり、活発な質疑応答も行われました。



植原利則市長(右)に図録の目録を贈る古賀理事長

## 久留米市に久重展図録 90 冊寄贈

久留米市出身の発明家・田中久重の偉業を顕彰し継承する活動を続けている久留米からくり振興会(理事長Ⅱ古賀伸彦・天神会理事長)は2012年2月、神奈川県川崎市東芝科学館から預託された同館開館50周年記念企画展「田中久重ものがたり」情熱と飽くなき探求心」の図録90冊を久留米市に寄贈しました。図録はA4版68ページで、万年自鳴鐘などの作品の写真も添えて、久重が明治8年に東芝の前身となる工場を創業したことなどを紹介。同市では全小中学校と特別支援学校に配布し、郷土に関することを自ら見つけて学ぶ「くろめ学」の授業の教材として使うことにしています。

## 天神会が開催、全国から909人参加

# 最少202病床で全国90病院に入る

厚労省は2012度から全国のDPC対象病院を大学病院本院群（I群）80病院、大学病院本院に準じる診療密度と一定の機能を備えた高診療密度病院群（II群）90病院、その他の急性期病院群（III群）1335病院にグループ分けしましたが、新古賀病院は高診療密度病院群のII群に選定されました。II群に選定されたのは九州・沖縄では8病院、福岡県内では5病院だけです。厚労省は事前にII群は病床数500床以上の約55病院しか該当しないと推計していましたが、新古賀病院の病床数はII群選定病院の中では最も少ない202床で、同省も想定していなかった高い評価を受けたこととなります。

厚労省が実施したグループ分けは、DPC対象病院の病院機能の度合いによって、入院診療費算出の乗率となる「基礎係数」を3段階にし、III群よりII群、II群よりI群の基礎係数を高く設定するためです。官報告示によると、I群の基礎

## 厚労省 新古賀病院をDPC病院II群に選定



従来の診療行為ごとに計算する出来高払い方式とは異なり、入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を計算する新しい定額払いの会計方式です。2003年度から大学病院・特定機能病院で運用が開始され、新古賀病院は06年度からDPC対象病院となりました。

DPCとは

### 胸腹部切開しない大動脈瘤治療

### ステントグラフト内挿術を実施

動脈硬化などによって大動脈の一部がもろくなつてコブ状に膨れる大動脈瘤は、破裂すると大量の血液を一気に失い、高い確率で死に至るためサイレントキラーとも呼ばれています。新古賀病院の心臓血管センターは、お腹や胸を切開しないで、足の動脈（大腿動脈）から細い管（カテーテル）を挿入して人工血管を患部に装着して治す、切開手術に比べて身体への負担が少ない大動脈瘤ステントグラフト内挿術を実施しています。

大動脈瘤の従来からの確立された治療法としては、お腹や胸を切開して大動脈の血流を一時的に遮断し瘤の部分を人工血管で置き換える人工血管置換術があります。大動脈瘤ステントグラフト内挿術はその後に開発された治療法で、人工血管置換術より痛みが少なく、身体への負担が小さいのが特長です。そのため、腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術では術後、約2週間の入院が必要ですが、ステントグラフト内挿術では約



腹部大動脈瘤(矢印)の手術前

ステントグラフト内挿術の手術後

1週間で退院できます。特に、心臓や肺が弱い人や、体力のないお年寄りには有用で、合併症の多い患者さんの治療も可能です。しかし、血管の形によっては適切でない場合もありますので、当院外来にご相談下さい。ステントグラフト内挿術も人工血管置換術同様、保険適用の治療です。

係数は1・1565となり、II群の病院は厚労省が「診療密度」「医師研修の実施」「高度な医療技術の実施（手術1件当たりの外保連手術指数、DPC算定病床当たりの同指数、手術実施件数）」「重症患者に対する診療の実施」という4つの

## 認定修練施設(A)になる



新古賀病院は、6月1日付で日本肝胆膵外科学会の肝胆膵外科高度技能専門医制度認定修練施設(A)になりました。修練施設(A)の認定は九州大、福岡大、久留米大、長崎大などの大学病院が中心で、九州・沖縄では18病院目、福岡県内では8病院目です。

修練施設は消化器外科医が高度技能専門医の認定を申請するために必要な教育研修を受けることができる施設で、認定されるには①日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設に認定されている②高度技能指導医あるいは

新古賀病院は、6月1日付で日高度技能専門医が1名以上常勤して十分な教育体制がとられていることが必須条件です。さらに、修練施設(A)には申請前年の12月末までの1年間に高難度肝胆膵外科手術を50例以上実施している、修練施設(B)には30例以上実施しているという条件が問われます。

新古賀病院はすでに日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設に認定されており、高尾貴史・消化器外科部長が日本肝胆膵外科学会の高度技能指導医で、厳正な学会基準がある高難度肝胆膵外科手術も2011年に52件実施しており、修練施設(A)に認定されました。

## 肝胆膵外科高度技能専門医制度

1997年4月に医療法人天神会の古賀病院循環器科にお世話になり、はや15年目になりました。入職5か月後の9月に現在の新古賀病院が稼働しはじめ



副院長 川崎友裕 <循環器内科>

新古賀病院の循環器科は、心臓外科と連携した「心臓血管センター」として現在に至っています。循環器科医は11名となり、新古賀病院では最も大所帯の診療科となりました

## 新古賀病院の歩みとともに

歴史の中で2002年に循環器科部長に任命され、2003年4月に心臓血管センターが開設されると同時に副センター長、2009年4月からはセンター長と歴任してきましたが、この度2012年6月から新古賀病院の副院長（兼心臓血管センター長）を拝命致しました。専門は循環器内科ですが、中でもカテーテルを使って心血管の狭窄・閉塞病変の治療を行う経皮的冠動脈形成術（PCI）を専門としています。治療における私のモットーは「ステント、ロータブレーターなどを駆使して、可能な限り内科的な低侵襲的にカテーテル治療で治す」です。

療植え込み型デバイスによる治療はもとより、末梢血管治療、大動脈瘤へのステントグラフト治療、その他器質的心疾患・肺疾患への治療などへも積極的に治療の幅を広げてきています。また今後増えてくるであろう「心不全」に対しても「心不全チーム」を編成し、古賀病院21と提携しながら、外来での生活指導、服薬指導、運動リハビリ療法などを継続して行うことで、再発予防と生活の質の向上を目指すようにしていきます。

このように今後も、この久留米の地域に貢献した治療が行なっているよう努力していきうと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



南三陸町の震災前 ▲



震災後 ▼

# 震災被災地の医療再建に赴任

## 福山・新古賀病院名誉院長

新古賀病院の福山尚哉院長は2012年3月末で退職して名誉院長となり、4月から東日本大震災からの復興を目指す宮城県南三陸町にある公立志津川病院の内科医として赴任し、「復興の支えにと震災被災地の医療再建に赴任する医師」として西日本新聞と読売新聞の筑後面に紹介されました。

福山・名誉院長が赴任した公立志津川病院のある宮城県南三陸町では、人口17000人の約7割が昨年3月11日の

東日本大震災と大震災による大津波の被害に遭いました。大震災前の同町内にあった六つの診療所はすべてが押し流され、鉄筋5階建ての公立志津川病院も4階まで波に飲み込まれて入院患者さん72人と医療スタッフ3人が行方不明



勤務を終え天神会の古賀理事長から 感謝の花束を贈られる福山院長



南三陸町の町長室に佐藤仁町長（左から2番目）を訪ねた福山名誉院長（右隣）と 鈴木隆・志津川病院院長（左端）、横山孝明事務 長（右端）

## 「まだまだ全国からの支援が必要です」

となりました。救出できた患者さん42人とスタッフや周辺からの避難者計250人は5階の会議室で寒さに震えながら励まし合って夜を明かしましたが、津波をかぶった入院患者さんのうち7人が翌日までに死亡し、全員が死の恐怖と無力感に襲われたそうです。



ようやく開設された公立南三陸診療所(右の建物は町役場)

授を通じて慢性的な医師不足の事情を知りました。昨年7月に現地を視察し、「東北は祖父母が出身の第二の古里。誰かが手伝わないと病院はもちろん、町が成り立たなくなってしまう。私のようなリタイアした年齢の医師が長期的なボランティアに行く誘い水になれれば……」と公立志津川病院への単身赴任を決意しました。

大震災後、同町内の医療機関は公立志津川病院の仮設診療所だけとなり、入院患者さんは隣の登米市の米山病院39床を借りて診療を始めましたが、福山・名誉院長は九大医学部の後輩にあたる東北大学部第一内科の下川宏明教



がれきの向こうに見える半分取り 壊された志津川病院

泌尿器科、耳鼻科など9つの診療科を持つ2階建ての公立南三陸診療所がようやく開設され、福山・名誉院長を含む常勤医師6人と東北大や山形大などからの支援医師が1日200人近い外来患者を診察。常勤医師6人は交代で診療所と約30キロ離れた米山病院との間も行き来して当直にもあたっているそうです。

福山・名誉院長は「2015年には高台に新病院が建設される予定ですが、町に唯一の病院は町の人々のよりどころです。滞りなく運営していくためにはまだまだ全国からの支援が必要です。少しでも多くの人々のシンパシーに期待します」と話していました。

# 乳がん手術の乳房温存率88・2%

## 乳腺外科 雑誌「TVが九州トップ」と紹介

新古賀病院の乳腺外科が、化学療法・手術・術中迅速病理診断・放射線治療などを組み合わせたグループ連携による集学的乳がん治療によって、九州では最も高い乳房温存率88・2%という治療実績（2010年度）を上げていることが、雑誌やテレビなどで相次いで紹介されました。

施設の「2010年度乳がん手術実績」が掲載されましたが、その中で新古賀病院・乳腺外科の乳がん手術での乳房温存率は88・2%（1100件中97件）で、九州では最も高いことが紹介されました。さらに、4月28日に発売された高齢者住宅レポートガイド誌「らくらす福岡夏号」では、「乳房残し命も守る最新



術後の検討会取材するサガテレビのスタッフ

の乳がん手術」として、新古賀病院の乳腺外科手術

や病理診断科の術中迅速病理診断、新古賀クリニックの化学療法、古賀病院21・放射線治療センターのグループ連携による乳房温存療法や、そのデータに裏付けられた安全性などが掲載されました。

また、SISサガテレビでは6月13、14両日の「かちかちワイド」で、乳がんを手術する田中喜久・乳腺外科部長や摘出したリンパ節・腫瘍を術中迅速病理診断する入江康司・病理診断科部長らスタッフ



インタビューを受ける村井雄一さん晴美さんご夫婦

さんは「当初、全摘手術を希望していましたが、乳がんセミナーを受講した際、他の病院で全摘手術をしたという隣席の女性から、お風呂で胸を見るではないかと後悔していますと涙ながらに訴えられ、温存手術を決意しました。温存することができて、本当に良かったと感謝しています」と答え、かたわらのご主人も大きくうなずいていました。

2012年2月20日に発行された読売新聞社発行の「病院の実力2012」総合編では、全国713

# 緩和ケア病棟「実りの樹」を開設

## 「あなたらしく生きることを支えます」

古賀病院21では、2012年6月から「あなたらしく生きることを支えます」を理念にした緩和ケア病棟「実りの樹」(8床)を3階に、4月からは化学療法室を2階に開設しました。

緩和ケア病棟とは、がん病変に対する治療が有効でなくなった患者さんで痛みや不快な症状の緩和を希望される方を対象に、その痛みや不快な症状を和らげ、残された時間をご家族とともに有意義に過ごしていただくための支援を行う病棟です。

がん患者さんとご家族の思いを汲み取ったケアの実践や静かで温かな環境づくりなどに努める方針で、トイレや洗面台、テレビ、冷蔵庫はもちろんだ、加湿空気清浄機やご家族のためのソファベッドを完備した全個室の病室、写真下8室と、ご家族と患者さんが一緒に利用することもできる家族室1室、デイルーム、キッチン、一般浴室、特別浴室などを設けてい



写真右：小林部長(中央)らスタッフ  
写真左：病棟を支えるボランティア



## 2階には化学療法室を開設

ます。原則的に外出、外泊、食事も自由で、キッチンを利用してご家族に好きな料理を作ってもらうこともできます。また、ペットの持ち込みも支障がない範囲で許可しています。

2階病棟の一般用エレベーター乗降口前に開設した化学療法室は写真上は約80平方メートルで、点滴を行うための4つのリクライニングシートとベッド1床を備えた治療室のほか、診察室、機材準備コーナー、トイレを設けています。看護師2人が常勤し、予約制で、毎週火曜・水曜・木曜の午前9時45分から午後5時までの間、消化器内科・外科や呼吸器内科・外科、泌尿器科、血液内科などの患者さんの治療にあたっています。

## 泌尿器の科専門医基幹教育施設に

### 年間標準手術数176件

古賀病院21の泌尿器科は2010年4月、日本泌尿器科学会指導医で日本泌尿器内視鏡学会評議員の北城守文部長を迎えて新設しましたが、2011年の年間標準手術数は176件にも達し、2012年4月1日付で日本泌尿器科学会の「専門医基幹教育施設」に認定されました。



### …… からだ言葉のカルテ⑨ ……

1975年に日本レコード大賞を受賞した小椋佳・作詞作曲の「シクラメンのかほり」は、今も歌い続けられている名曲です。多くの方がこの曲名を「シクラメンの花のかぐわしい香り」と読み取っていますが、「香り」の歴史的仮名遣いは「かほり」ではなく「かをり」です。当時は香りを持つシクラメンもまだ開発されていませんでした。「佳穂里(かほり)」は小椋夫人の名前で、曲名はおそらく『はにかみ』『清純』などの花言葉を持つ『シクラメン』のような『佳穂里』の意味で、「暮れ惑う街の別れ道にはシクラメンのかほり(はにかみ屋で清純な佳穂里)むなしくゆれて季節が知らん顔して過ぎて行きました」の世界だったのではないのでしょうか。

ただ、確かに「香り」は「気折(カワ)」が語源で、万葉集などでは「塩気能味 香乎(かを)礼流国尔」のように使われていますが、歴史的仮名遣いの基準となった平安時代中期の女房文学・源氏物語の原文に最も近いと思われる大島本(国の重要文化財)では、「かほり」は29例も使われ、「かをり」はわずか3例だけです。鎌倉初期の歌人・藤原定家が探求した仮名遣いを、室町時代の僧・行阿が修正した定家仮名遣いも「かほり」です。(水)

診療にあたる北城・泌尿器科部長



申請するために必要な教育研修を受けることができる施設です。「専門医教育施設」の認定には指導医の常勤が必須条件で、泌尿器科の年間標準手術件数が80件以上の「専門医基幹教育施設」と同80件未満の「専門医関連教育

施設」があります。176件の古賀病院21は「専門医基幹教育施設」に認定されました。「専門医教育施設」での教育研修は3年間が必要で、うち、少なくとも1年間は「専門医基幹教育施設」での教育研修が義務付けられています。

## 福利厚生棟が完成



と、職員向け保育所の幼児保育室、乳児保育室、多目的室など、2階には男女別の各更衣室や休憩室、仮眠室、シャワー室のほか、ラウンジやボランティア室が設けられ、ボランティア室は緩和ケア病棟のボランティアに使っていただいています。

完成を記念して久留米医師会と共催し2012年1月18日に1階

古賀病院21の本館西側の駐車場スペースに建設していた福利厚生棟(鉄筋2階建て延べ1459平方メートル)が2011年12月に完成しました。写真上。

の会議室で開いた中西洋一・九州大学胸部疾患施設教授兼九州大学病院高度先端医療センター長の講演「肺癌研究君達に成し遂げて欲しいもの」は、開業医の先生ら131人に聴講していただきました。



# 受診者5年間で2.65倍

## 健康管理センター

新古賀クリニックの健康管理センターでは2007年4月から受付や待合室、検査・診察室のすべてを男女別の専用フロアにリニューアルしたことから、「安心」「ゆったり」「きれい」と好評で健診・人間ドックの受診者が増えていましたが、2011年度の受診者は男女同一フロアだった2006年度に比べて2.65倍に達し、特に女性は3.13倍にもなりました。

同センターは日本人間ドック健診施設機能評価認定や優良人間ドック・健診施設、日帰り人間ドック実施施設、健康保険組合連合会指定施設、全国健康保険協会生活習慣病健診施設などの認定も受け、下の図のような健診・人間ドックを実施しています。男女別の専用フロアはもちろんです。すべての検査結果を画像ファイリングに人力して過去の検査結果との比較が瞬時にできるシステムも導入しており、再検査や精密検査が必要な場合



## 男女別で安心・ゆったり・きれいと好評

は新古賀病院、古賀病院21との迅速な連携が可能です。  
男女同一フロアだった2006年度の受診者は7308人（男性3648人、女性3660人）で、リニューアルした07年度は1650人増えて8958人（同4362人、同4596人）でした。さらに、男女別の専用フロアであることが浸透してきた08年度は5247人増えて12555人（同5537人、同7016人）となりましたが、11年度には19373人（男性7930人、女性11443人）となり、06年度に比べて2.65倍（男性2.17倍、女性3.13倍）に達しました。

<b>健診</b>	協会けんぽ(旧政府管掌) 健保組合のない事業所	組合管掌健康保険 健保組合を持つ事業所	国民健康保険 農漁業・自営業など	後期高齢者医療 75歳以上全員
-----------	----------------------------	------------------------	---------------------	--------------------

新古賀クリニック 健康管理センター ☎0942-35-3170



<b>人間ドック</b>	一般ドック	日帰り(半日) 37,800円 ●血液検査 ●尿検査 ●便潜血検査 ●心電図検査 ●腹部超音波 ●眼圧測定	精密(半日) 73,500円 ●腫瘍マーカー(2項目) ●胃透視または胃カメラ検査	短期入院(1泊2日) 58,800円 ●眼底カメラ検査 ●胸部X線撮影 ●腫瘍マーカー(2項目) ●糖負荷検査 ●呼吸機能検査 ●頸動脈超音波検査 ●ABI(血圧脈波測定) ●胃透視または胃カメラ検査
	専門ドック	脳ドック 29,400円 ●頭部MRI・MRA検査 ●頸動脈超音波検査 ●眼底カメラ検査 ●ABI(血圧脈波測定) ●血液検査	肺がんドック 15,750円 ●ヘリカルCT検査 ●喀痰検査	レディースドック 12,600円 ●子宮がん検査 ●経膈超音波検査 ●マンモグラフィ検査(2方向) ●乳腺超音波検査 ●骨密度測定

新古賀クリニックが2012年4月、一般社団法人日本脳ドック学会の「脳ドック認定施設」になりました。認定は①最新の「脳ドックのガイドライン」に準拠した脳ドックの実施②直径3ミリ以上の未破裂脳動脈瘤が確実に検出でき、かつ脳主幹動脈狭窄病変の評価のための高精細な画像が作成できるMR機器及びソフトウェアの使用③過去1年間の受診者数が50例以上——などが条件です。

## 脳ドック学会認定施設に



脳ドックに使用する最新鋭の3.0テスラMRI

クリニックの健康管理センターは脳ドック（オプションを含む）を2010年672例、2011年797例実施しており、他の条件もいずれも整っているとして認定されました。福岡県内では5施設目の認定です。



## 薬草ジギタリスの花が満開

新古賀クリニックの西入口横の花壇に2012年6月、白色や薄紫色の釣鐘状の花弁がユニークで美しいジギタリスの花が満開になりました。ジギタリスは英国の医師が強心剤としての薬効を発表した1776年以来、その葉身からジギトキシン、ジゴキシンなどの強心配糖体を抽出して、うっ血性心不全の特効薬として使われました。

**編集後記** 第9号が出来上がりましたのでお届けします。今回は社会医療法人認定など、お知らせしたいニュースが数多くあり、掲載紙面が4ページ増えて計20ページになりました。今回から表紙の写真も新古賀病院の入江康司・病理診断科部長が撮影した「花シリーズ」を掲載いたします。お問い合わせやご指摘、ご要望などがございましたら広報部(0942・38・2386)までご連絡下さい。

2012年6月に新古賀クリニック副院長を拝命しました。専門は循環器内科で、2011年4月にクリニックに開設した糖尿病センター内の循環器外来を担当しているほか、2005年よりクリニック血液浄化センターの診療を担当しています。

新古賀クリニックには、予防医療部門（健康管理センター、メディカルフィットネス、メディカルアロマテラピー）、各科専門外来（糖尿病センター、血液浄化センター、

## 専門各科の連携密に診療

消化器病・内視鏡センター、女性外来、化学療法室と、介護福祉サービス関連（通所リハビリセンター、訪問看護ステーション、天神ケアプラン、ケアセンター）があり、糖尿病センターには尿病センターには糖尿病・内分泌外来のほか、循環器内科・腎臓内科・創傷フットケア外来を併設しています。



副院長 大坪義彦 <循環器内科>

当院では、これらの各科・各部門のスタッフが密に連携し診療にあたっています。糖尿病外来患者に合併した高血圧や虚血性心疾患、腎症、足の壊疽などに対しては循環器・腎臓・創傷外来が早期より介入し、健康管理センターで早期発見したメタボリック症候群、糖尿病や慢性腎臓病に対してはメディカルフィットネスや糖尿病・腎臓外来が早期より介入しています。血液浄化

センターでも、原疾患の糖尿病や、合併症の虚血性心疾患や高血圧、壊疽などの診療を各専門の科・部門が連携して介入し、また、運動不足に対しても健康管理センターとの連携で運動療法を行っています。天神会の理念である「人々の豊かな生涯を支える医療」を実現し、また、社会医療法人としての責務を果たすべく、全職員が一丸となって精一杯努力する所存です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

● ● ● 理 念 ● ● ●

人々の豊かな生涯を支援する医療

行動規範

1. **病める人中心の医療** 病める人の権利を尊重し、プライバシーを遵守して、思いやりのある医療の実践に努めます。
2. **安全で高度な医療の提供** 病める人の安全を確保し、いつでも受療できる体制を整え、心のこもった質の高い専門的医療の提供に努めます。
3. **医療機関との連携** 地域医療機関との連携を緊密にし、生涯にわたる一貫性のある医療の提供に努めます。
4. **医療人としての研鑽** 私たちは医療人として、医療技術の向上に日々努め、節度ある態度をもって病める人に対処できるように自己研鑽に努めます。

社会医療法人 天神会

K O G A

URL <http://www.tenjinkai.or.jp>

E-mail [info@tenjinkai.or.jp](mailto:info@tenjinkai.or.jp)

新古賀病院

〒830-8577 久留米市天神町120  
TEL : 0942-38-2222 (代) FAX : 0942-38-2255

古賀病院21

〒839-0801 久留米市宮の陣3-3-8  
TEL : 0942-38-3333 (代) FAX : 0942-38-3324

新古賀クリニック

〒830-8522 久留米市天神町106-1  
TEL : 0942-35-2485 (代) FAX : 0942-37-3793

天神会ホームページへは

2012年7月発行

社会医療法人「天神会」広報誌第9号  
発行／社会医療法人「天神会」  
編集・製作／「天神会」広報部  
印刷・製本／株式会社四ヶ所